

平成26年度 事業報告書

大慈ショートステイ

1. 《法人ヴィジョン》

- ①経営の強化
- ②サービスの質の向上
- ③教育システムの充実

2. 《基本方針》

老人福祉法・介護保険法の理念及び法人の設立方針である「和顔愛語・上敬下愛」及び法人訓を基本方針として、高齢者の人権を尊重し、自立を目指して、高齢者の精神的・身体的な援助を行う。又、利用された皆様との人間関係を深め、笑顔を忘れず“生活の場”として、利用された方及びご家族に満足していただけるサービスを提供する。

3. 《中・長期計画》

●最終目標 ①『ふあっとほーむな生活を目指す』

※ふあっとほーむとは、和みのある家庭的な雰囲気の中で、人と人とのつながりを大切にすること。

②『一人ひとりが輝き、あなたが主役になる場所を目指す』

●中期目標

- ①経営理念やヴィジョンを全員が把握し、徹底していくことで特色ある施設作りができる。
- ②職員レベルを向上させプロ集団を形成すると共に、サービスの質の向上を図る。

4. 《部門別目標》

<ケア部門>

●26年度重点目標

①顧客ロイヤリティを高めリピーター率の向上を目指す。(指標：リピート率75%)

A) 日課の見直しを行い、効果的にアピールする

- ・特色のあるレクリエーションの実施(日替わりメニュー)
- ・フロア掲示物の考案・実施(行事予定表や園内行事写真)
- ・作製作業を行い、作品や作業写真をプレゼント
- ・外出行事を毎月企画する

日課等の見直しや、日替わりレクリエーションの内容などは、実施できている。また、作品展示も実施出来ているが、作業写真等の配布は現在も行えていない為、定期的に行っていきたい。行事等においては、バイキング等プラム棟との合同にて実施している。長期利用されている方の外出について計画を立てて行う事を目標としたが、スタッフ人員の問題により定期的には外出は行えなかったが、プラム棟と合同で計画し、初詣、花見等季節の行事に合わせて外出して頂けた。

②他事業所との連携強化(新規客目標：年間40件)

A) 事業所へ定期的な報告を行う

- ・サービス担当者会議への出席
- ・1回/月、評価表(仮)を送付

サービス担当者会議等の参加は問題なく行えている。また、利用時の体調の変化等においても小まめな状態報告を行うように心掛けているが、部署内でのミスに伴う苦情多く見られた。そのような場合も、敏速に担当ケアマネジャーへ報告行う事により、大きな苦情等に繋がるケースは見られていない。

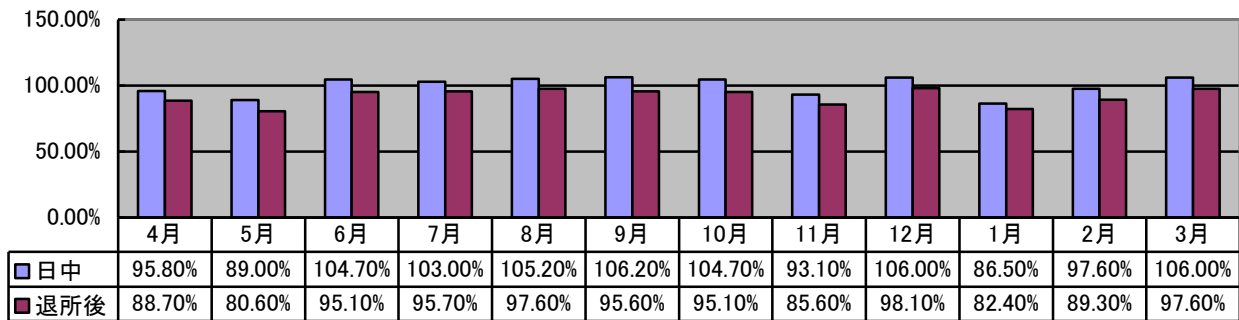
B) 緊急時の受け入れを率先して行う

- ・一日の利用でも受け入れる体制を確保
- ・契約業務の実施者を増加

新規利用問い合わせ 54 件と目標は達成できた。その内、入所、ロングショート、DS 等への移行を含め、継続利用されている方は 20 件程と比較的継続利用に繋ぐ事が出来た。だが、他部署との連携の問題等で、利用に行き着かなかつた方や、利用中断となつた方もおられた為、連携を図り、問題点を明確にした上で、安心してご利用頂ける様にしたい。

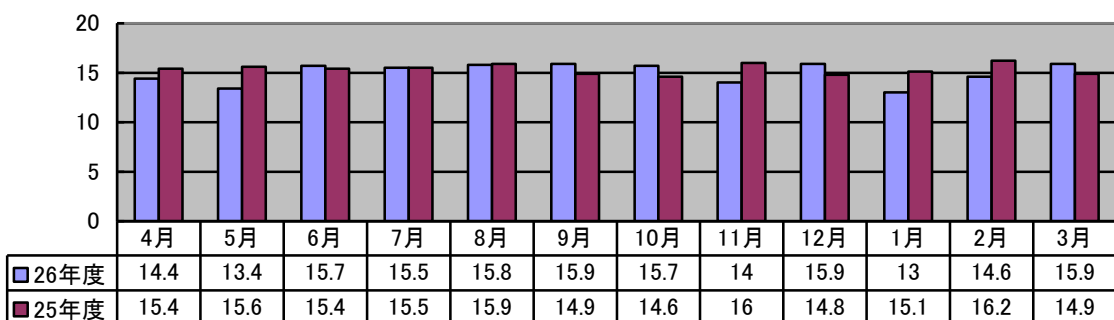
○充足率→日中 99.8%、退所後 91.8%

(前年平均 日中 102.5%、退所後 95.3%)



○平均人数→日中 14.9人、退所後 13.7人

(前年度平均 日中 15.4人、退所後 14.3人)



●介護度別年齢別等人数表（平成27年3月31日時点での実人数）

要介護度	平成26年度				平成27年度			
	合計人数	男	女	平均	合計人数	男	女	平均
支援1	4	2	2	95.8歳	7	5	2	86.4歳
支援2	8	1	7	89.5歳	26	13	13	85.6歳
1	63	16	47	83.9歳	75	12	63	85歳
2	69	31	38	87.9歳	59	17	42	87.9歳
3	117	31	86	86.2歳	111	38	73	85.1歳
4	63	15	48	91.1歳	61	15	46	90.2歳
5	67	49	18	78.9歳	54	28	26	81.1歳
合計	391	145	246		393	128	265	
平均介護度		3.3	2.7	2.9		3.3	2.7	2.9
平均年齢		80.8歳	88.9歳	85.9歳		77.7歳	89.4歳	85.8歳
最高年齢		97歳	101歳			92歳	104歳	
最低年齢		57歳	62歳			56歳	61歳	

<栄養科>

<理学療法科>

<看護部>

5. 《行事等の実施内容・反省点》

6. 《会議の実施内容・反省点》

7. 《職員会議・OFF-JT》

弥勒園同様

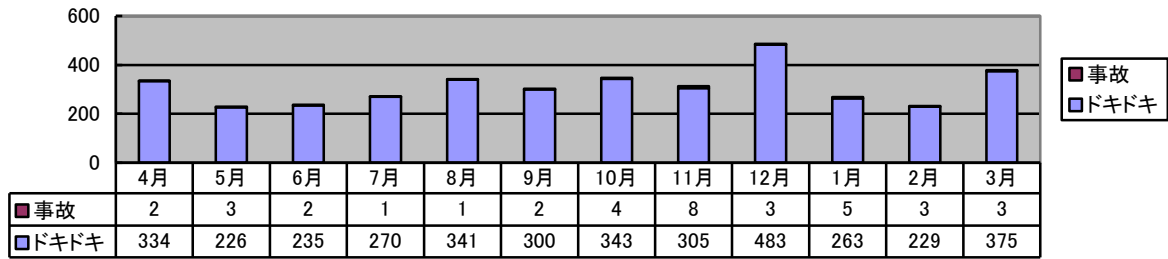
8. 《リスクマネジメント報告》

☆事故の定義・・・膝が地面に接地した時点で事故とみなす。

①報告件数

前年度に比べ、事故件数が2件減である。ロングショートステイゲストの増加により、リスクの把握が出来やすかった事もあり、上半期は事故が減少傾向であった。下半期に入りロングショートステイゲストの転倒事故が増え、状態変化に迅速に対応できていない事が原因と感じている。また、新人職員の研修期間中に、新人職員が一人でホールの見守りを行う事があり、事故に繋がった事もあった。

報告件数	平成26年度			報告件数	平成25年度		
	合計件数	事故	ドキドキ		合計件数	事故	ドキドキ
	3,741件	37件	3,704件		3,567件	39件	3,528件



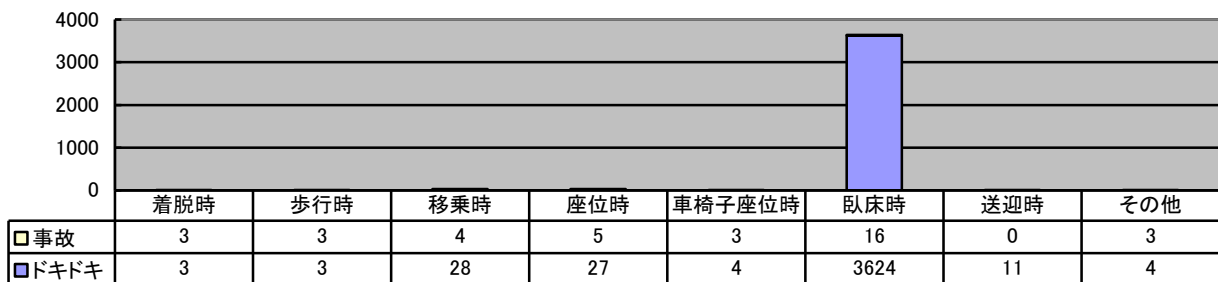
②発生場所別件数

夜間帯のセンサー反応が大半を占めており居室でのドキドキが多い。センサー反応が重なり優先順位を間違えた事や、寮母室でセンサー対応に備えなければならない際に他の場所で業務を行い、事故に繋がるケースもあった。



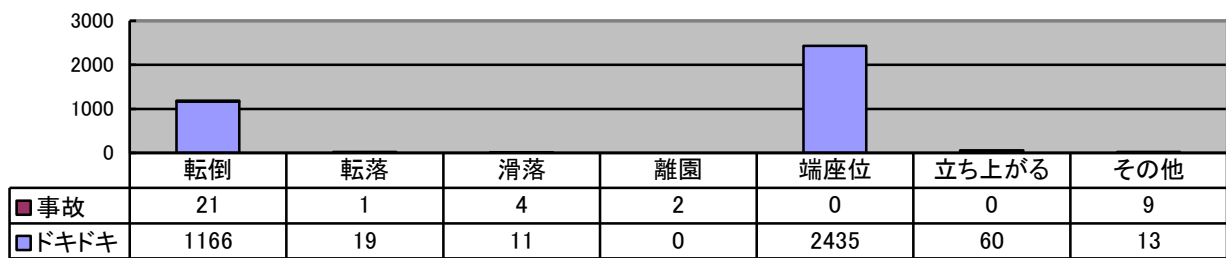
③発生状況別件数

臥床時のドキドキと事故が多く、夜間帯が殆どを占めている。ベットセンサーの設定方法が把握できていない職員がいる事も判明した為、再度、職員指導を行い迅速で適切なセンサー対応を目指していく。



④発生内容別件数

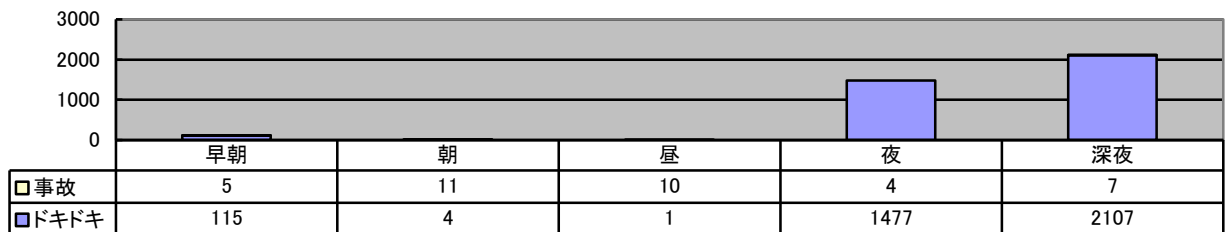
転倒や端座位のドキドキが多数あり、事故に繋がるケースは21件と少なく感じられる。上記で述べた通り、センサー設定に不備がある職員や、対応に問題がある職員もいたが、反応時は急いで対応を行っている結果であると考え。現状の勤務に対する姿勢を維持しつつ、防げる事故（センサー設定ミス）を減らしていきたい。また、同一ゲストで離園事故が2件あり、重大性を理解している職員も多いが、新人職員や経験がない職員への意識向上も図っていきたい。



⑤時間帯別件数

早朝 4:00~6:59	朝 7:00~11:59	昼 12:00~16:59
夜 17:00~22:59	深夜 23:00~3:59	

業務を行う職員（遅出）がある程度固定となっているが、前年度に比べ昼間の事故が増えている。長期利用ゲストが増え、状態把握が出来やすいという利点はあるが、小さな変化に気付きにくくなっている点や、業務優先でゲストの変化に気付く目線が持てていない点があるのではないかと考え、今後は職員に対し、上司から声を掛けたり、情報交換を行う事で、意識向上を図りたい。



⑥まとめ

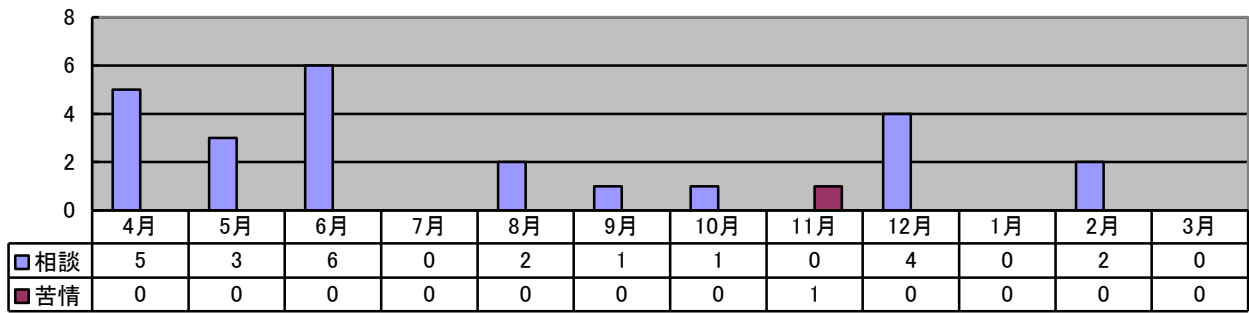
長期利用ゲストの増加、ハイリスク者の減少により、上半期の事故は減少傾向であったが、下半期は増加し、結果前年度に比べ2件減である。職員もある程度固定化しているが、業務優先になりゲストの対応が出来なくなる場面が多く見られた。固定化により小さな変化に気付かなかった事も考えられるが、リスク委員からも積極的に情報交換等を行い、リスクに対する意識だけでなく状態変化に対しても配慮する必要があったと感じている。来年度はKYT法を導入するという事もあり、危険予知の目線作りに取り組みたい。

9. <<苦情・相談結果報告>>

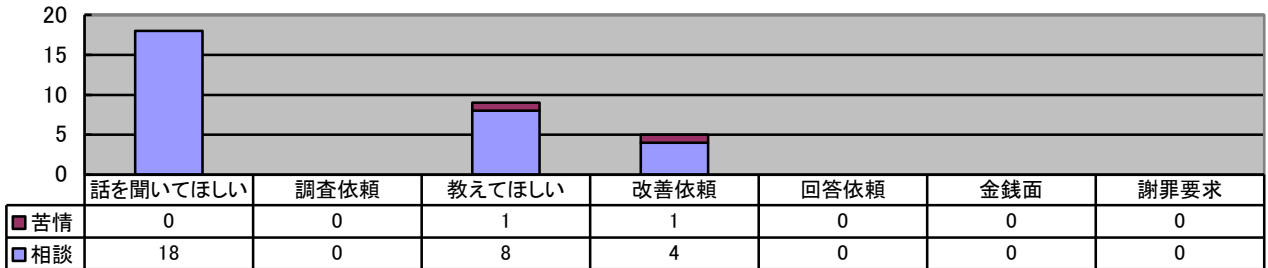
苦情の定義→施設長が直接対応した件を苦情とする。

○報告件数

平成26年度				平成25年度			
報告件数	合計件数	苦情	相談	報告件数	合計件数	苦情	相談
	25件	1件	24件		37件	0件	37件



要望分類



※複数回答しているため件数が多い。

○主な内容

ゲストよりトイレが汚い、食事の内容が人によって違う、食べてはいけないものがあるのに伝わっていない等。ご家族より、薬の返却忘れ、上履きで帰宅した、パッチを履いていない、叩かれたと言っている、顔にあざが出来ている経緯についての報告回答依頼などがある。

○まとめ

ゲストからは、トイレが汚いなど、職員が普段実施出来ていない掃除についての相談があり、定期的に実施出来る様に話し合い現在同様の相談は聞かれていない。
I氏の対応では報告の遅れ説明不足、相手の気持ちに立った報告が出来なかった為に職員の不信感が強くなってしまった。職員会議でそのゲストの対応について話し合い、声掛けが大切である事を職員全員で周知徹底した。

10. 《総括》

新規問い合わせ件数、継続利用される方も増加し、ゲストの入れ替わりの激しい1年であった。
充足率については、年末のインフルエンザ蔓延等により確保出来なかった事もあるが、特に入所部門が好調な時は同様に問い合わせが多く受け入れが出来ず、逆に悪化傾向の時には同様に悪化と平行線で進んでしまったように思われる。互いの好調時、不調時に相反して受け入れ出来るように考え行動できるようにしたい。
次年度は、制度改正により、ロングショート廃止と緊急ショートが利用し易くなる。これに伴い、ゲストの入れ替わりは今以上に激しくなる事や、医療ニーズの高いゲストの増加が予測される為、関係部署と連携を密にし、利用につなげたいと考える。